中野区立第七中学校　令和８年度 学校経営方針

令和８年４月２５日

【教育目標】

「すすんで学ぶ人になろう」　個に応じたきめ細やかな教育を実践して、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、生徒自らがすすんで学ぼうとする態度を育てる
「心ゆたかな人になろう」　〃　思いやりの心や社会生活のルールを身に付けさせ、人間性豊かな人格をはぐくむ
「社会につくす人になろう」　〃　勤労と責任を重んじ自らが平和で豊かな社会をつくり出す一員となる自覚と態度を育てる

【基本方針】

中学校の３年間は、人生において大変影響を受けやすく、多くのことを吸収できる時期である。この時期に「粘り強さ」「よりよく生きようとする力」をつけさせることが学校の役割である。そのためには、
「学び、知識を得ることによって豊かな人生を拓く」　「人と人とのコミュニケーションが人として成長させる」　「何事にも積極的に取り組める健康な心と体をもつ」
ことが重要であると考え、学校経営の基本方針とする。
さらに、自ら興味・関心をもち、選択し、決断する機会を増やしていくことで、主体的に行動を起こしていく力を高め「一人ひとりの可能性を伸ばし、未来を切り拓く力を育む」学校教育を行う。
そのためにも「地域と歩む第七中学校」として、保護者・地域の協力と信頼を得ながら、豊かな学びを実現することで、生徒の育成に尽力していく。

［目指す学校像］	［目指す生徒像］	［目指す教師像］
○ 確かな学力を身に付け、学ぶ愉しさを感じることができる学校 ○ 活気が満ちあふれ、豊かな心を育む学校 ○ 健康と安全、個性が保障され、一人一人が大切にされる学校 ○ 生徒や保護者、地域からの信頼ある学校	○ 主体的に行動し、自律できる生徒 ○ 自他共に大切にできる生徒 ○ 言葉を大切にし、明るく挨拶ができる生徒	○ 生徒を信頼し、任せて支援することで可能性を伸ばす教師 ○ 共感的理解の視点をもち、生徒と積極的にふれ合い育てる教師 ○ 自ら積極的に学び「子どもを主語」にする学びを実践できる教師 ○ 有機的に連携することができ、危機意識を常にもつ教師

【指導の重点】

＜教科指導＞
○ 授業の導入において学習の見通しをもたせ、生徒が学習の意味や価値を実感できるよう、拡散的・特殊的な好奇心を喚起する工夫を図る。
○ 授業のねらいに応じた振り返りにより、学びの成果を実感できる授業展開を通して、生徒自身が学習内容を把握し、自己調整的な学習態度を育む。
○ 個別学習ドリルや学習者用デジタル教科書を活用した個別最適な学びを通して、生徒が主体的に学習に取り組む態度を育成し、基礎学力の定着と学習習慣の確立を図る。
○ 話し合い活動や発表活動において協働学習支援ソフトを活用するなど、協働的な学びを充実させることで、生徒の思考力・判断力・表現力等を育成する。
○ 数学科では習熟度別指導、英語科では習熟度別少人数指導の実施により、個に応じた指導を展開する。
○ 英語科ではＡＬＴを活用し、英語に慣れ親しみながら、中学校卒業段階でＣＥＦＲのＡ１レベル相当以上の英語力を育成する。また、英語検定などを活用し、生徒自身が英語力を客観的に評価できるようにする。
○ 放課後学習教室や長期休業中の学習教室等を開き、補充的な学習を実施する。
○ 保育園・幼稚園・小学校の授業や教育活動を参観し、学びの芽生えや自覚的な学びについて理解を深め、主体的な学びを促す環境づくりに視点を当てた指導実践を図る。

＜生活指導＞
○ 援助希求的態度を育成し、組織的な相談体制の充実を図ることで、受け止め、支援する。
○ 生徒、保護者に積極的に関わり、情報を積極的に得て共有化することで、教育相談の充実を図る。
○ ＳＣやＳＳＷをコンサルタントとして活用し、事例検討を通して教員の教育相談力の向上を図る。
○ 全教職員と生徒がいじめに対して毅然とした姿勢を貫き、具体的な場面を通して主体的に考える機会を設ける。さらに、組織的な対応により、未然防止、早期発見と解決を図る。
○ 自尊感情を高める教育と生命を大切にする教育を推進しながら居場所づくりを進めるとともに、生徒一人ひとりのよさ（ウリ）や可能性を見いだし伸ばすことで絆づくりを促し、不登校の未然防止を図る。
○ 関係諸機関との連携や校内別室の活用により、居場所づくりを図り、不登校の未然防止、早期支援を行う。長期化への対応には、保護者との連携を積極的に構築しながら支援を行う。
○ 適切な指導を行いながら組織的な特別支援教室を運用する。
○ 安全指導や避難訓練、防災教育により、自助と共助の力を養う。

＜総合的な学習の時間＞
○ テーマを「共に生きる」と定め、１年「地域を知る」、２年「社会を学ぶ」、３年「未来を考える」とし、多文化共生の精神を涵養するとともに、よりよい生き方を実践しようとする態度を育てる。
○ 生徒が校外学習・修学旅行の活動内容や行程を検討することで、協働的に物事を進める態度や判断力を育成する。また、各学年のテーマに沿った調べ学習や探究的な学びを推進する。

＜進路指導・キャリア教育＞
○ ３年間を見通した進路指導計画のなかで、職業講話や上級学校からの講演会・授業体験により、将来や進路について考える指導を行う。
○ キャリア・パスポートによる自身の変容や成長を自己評価し、キャリア形成に生かす。
○ 地域活動や地域行事への参加により、活動の楽しさを知ることで、ボランティアマインドを育み、地域社会の一員としての自覚を高め、地域の担い手として貢献できる資質・能力を育成する。

＜特別活動、その他＞
○ 生徒自らが意見や考え、思いを表明し、その内容を協議する過程を通して、自分の考えが実際の学校生活に反映される経験を積み、主体的に学校生活に関わる姿勢を育むとともに、協働的な意思決定や責任ある行動の重要性を学ぶ。
○ 学校図書館を放課後の居場所として活用し、学習空間として機能させる。また、区立図書館との連携により、校外活動やビブリオバトル、読書の機会を設けて、読書活動を充実する。
○ 「体育健康プログラム」を実施し、運動との多様な関わり方により、生涯に渡る豊かなスポーツライフの実現に寄与する能力を育む。その上で生徒企画の異学年交流スポーツイベントを実施する。
○ 保幼小中連携教育では、学校行事やオープンキャンパス等により、教職員や児童・生徒の交流を行う。また、連携教育協議会で共有されたブルームのタキソノミー（・テーブル）への理解を深め、授業改善に生かしつつ学びの視覚化を進める。
○ 「子どもが考える校外学習・修学旅行」を実施し、生徒が検討し、意見表明する経験を通して、協働的に物事を進める態度や判断力を育成する。
○ 部活動指導員や外部指導員、地域施設を積極的に活用しながら、部活動の充実を図る。

＜特色ある教育活動＞
○ 地域資源を活用し、１年次に「薬物乱用防止（薬育）」、２年次に「がん教育」、３年次に「包括的性教育」を実施する。また、情報モラル教育やセーフティ教室を実施する。

＜特別支援学級＞
○ 障害に即した個別指導計画に基づき、能力や発達段階に応じた目標の設定による教育活動を行い、自己肯定感を高めさせ、自立と社会参加を目指す。
○ 体験的な学習を通し、成就感や達成感を味わう。
○ 「身体の動き」の指導により運動・動作の改善及び体力の向上を図る。
○ 状況に応じた言語活動を通してコミュニケーション能力を培う。
○ 特別支援学級と通常の学級の教員同士の対話を活発にし、生徒間での交流及び共同学習を推進する。また、他校の特別支援学級との交流を推進する。